

2024年度2Q決算説明会 主な質疑応答

(2024年11月8日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：全体的に期初予想より需要の回復が遅れているようだが、来期の業績見通しは？

A1：半導体・電子部品向け製品は想定よりも緩やかな回復となっているが、確実に需要は回復基調に向かっている。xEV向け製品も想定より市場の成長が鈍化しているが、今後もメガトレンドであるxEV市場が拡大していくという認識には変わらない。一方、窒化珪素の回路基板は、競争が激しく苦戦している。対策として、窒化珪素の粉体から製造している当社の強みを生かせるよう、回路基板の前工程の段階である白板の高熱伝導化による特徴出しに注力しており、市場で存在感を発揮できるポジションを確立することで、25年度以降に効果を出す計画。以上のことから、来期以降の業績回復を見通す。

<ライフイノベーション>

Q2：抗原迅速診断キットの上期の需要動向と下期の見通しは？

A2：1Qはインフルエンザの検査需要があり、また2Qは新型コロナの流行が落ち着いてきたものの需要は堅調に推移し、上期は販売が期初予想を上回った。下期は足元で他の感染症が流行し、さらにインフルエンザや新型コロナが流行期に入ること、抗原迅速診断キットの販売が堅調に推移し、引き続き製造はフル生産が続き、通期では期初予想並みの出荷を見込む。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q3：2Qの営業損益（29億円の赤字）が1Qの営業損益（2億円の赤字）よりも27億円悪化した要因は？

A3：昨年度末にクロロブレンゴムの在庫評価減を計上しており、今年度の1Qは洗替法という評価方法により、その評価減の戻しを約20億円計上したことに加えて、2QではDPEのコストが増加し、販売数量も減少したため。

Q4：クロロブレンゴム事業の抜本的対策の検討期間を2024年12月末から2025年3月末までを目途に変更した理由は？

A4：クロロブレンゴム事業の抜本的対策については、これまで通り環境規制の動きを踏まえつつ、事業性に基いた検討をしており、方向性に大きな変更はないが、ステークホルダーへの対応で想定していたよりも検討すべき事項が多くなったため。

<ポリマーソリューション>

Q5：化学業界では石油化学事業の再編が進んでいるが、どのような影響を想定しているか？

A5：サプライチェーン上流での再編動向を注視しながら、当社スチレンチェーン事業の販売と生産体制の最適化を検討している。現時点では、大きなネガティブ要素は想定していない。

以上